

# 第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

## 報告書資料 復興支援 - 18

学校名・団体名	熊本市立健軍東小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	子ども同士がつながる、地域とつながる学校づくり

### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

#### 1 活動に至る経緯

平成24年度の創立30周年記念式典では、地域の諸団体の方々と一緒に式典を盛り上げる取組が盛大に行われたが、そのつながりは年々縮小に向かい、地域行事は実施されているものの、児童や保護者の参加は減少傾向にある。平成28年4月の地震では、地域との連携の弱さが感じられた。本校校区は公務員住宅のアパート群を主体とした校区で、転出入も多い。そのため、保護者も校区でのつながりは転勤までの一時的なものになってしまう。そのような状況は、子どもたちだけでなく教職員にとっても、地域の方々をよく知らない状態となっている。これから目指すべき「社会に開かれた教育課程」に向かって、学校を中核にして、地域とつながる実践を今から展開する意義は大きい。

#### 2 活動の時期と活動内容

##### (1) 地域諸団体との交流のきっかけづくり（5月～7月）

本校運動会には40人近い校区諸団体の来賓があるが、児童にとって顔は知っていても名前までは分からない。保護者も運動会に来校していることから、次年度入学の1年生のかけっこじゃんけん競技に地域の来賓に参加していただき、全保護者や全児童を前に校区諸団体の方々をアナウンスで紹介した。そのアナウンスを聞いた5年生と6年生にとって地域との交流学習のきっかけづくりとなった。



5月～7月。5、6年生から希望者を募り、校区交通安全協会指導による自転車競技大会に向けての練習と大会に参加した。練習指導には、地域の校区交通安全協会の皆さんや地域の警察署がボランティアで来校・指導を行ってくださった。練習や大会本番を通して、校区交通安全協会との関わりから、日頃の登下校や自転車乗りなどへの交通安全への意識高揚や登下校時の挨拶を積極的に行う児童も増えた。



##### (2) 地域諸団体への取材（6月～2月）

6月。5年生が総合的な学習の時間に、運動会での校区諸団体の方々の存在を知ったことから、これまで意識していなかった地域とのかかわりを日常生活の中で保護者や家族、学校関係者に取材した。地域諸団体の小さな活動にも児童は気付きはじめ、地域のパトロールや公園清掃に参加する児童も見られるようになった。

11月。全校で地域の方と一緒に給食を食べる「ふれあい給食」を実施した。特に5年生は、総合的な学習での地域諸団体調べをしていたので、すっかり顔馴染みになり、日頃の活動などを気軽にインタビューして交流することができた。

2月。ふれあい給食の時間では、十分に質問することができなかつたため、校区諸団体の長の方々に団体の活躍ぶりや質問をしてみたいということで、招聘して話を聞く機会を設けた。協力していただいたのは、「自治協議会」「校区体育協会」「民生児童委員」「学校評議員」「PTA」「社会福祉協議会」「交通安全協会」「公園愛護会」「健東レ



ンジャー隊」「青少年健全育成協議会」「まちづくりセンター」である。児童は、地域団体の方々が自分たちの知らないところで地域のために力を注いでおられることや全てボランティアで携わっていただいていることに驚いていた。また、無報酬であるにも関わらず「地域みんなが笑顔のために」という共通の思いに気付くことができた。

### (3)防災頭巾づくり (7月~9月)

7月~9月。5, 6年生が、手縫いで防災頭巾づくりに取り組んだ。熊本市では平成28年に熊本地震を経験したことで、平成30年度までに熊本市内全校で防災頭巾を全児童が準備することになった。熊本市教育委員会から手作り頭巾の紹介があったことから、本校では、5, 6年生が家庭科の時間を使って手縫いすることにした。今回の助成金で購入した1人当たり3枚と20cmのゴムひも1本で、並縫いだけで防災頭巾を作った。民生児童委員の方々に防災頭巾作りの話をすると快諾いただき、協力をしていただいた。4人グループに1人の民生児童委員さんに入っていた。児童は運針や玉留め、玉結びを民生児童委員さんに尋ねたり、確認をしたりしながら、作り上げることができた。6年生は、さらに、ペア学年である1年生にも自分の命を守る大切さを伝えようということで、手作り防災頭巾を作って、プレゼントした。市販品のようで美しい仕上がりではないものの、6年生が1年生の命を守るために心を込めて丁寧に縫ってくれたことで、民生児童委員と交流も深めることができただけでなく、1年生にも防災意識を高めることにつながった。また、5年生も6年生と同じく防災頭巾を手作りしたが、3月には次年度入学児童への入学プレゼントとして再度、防災頭巾作りに挑戦。

本年度の6年生が1年生への「命を守る防災頭巾プレゼントの取組」が5年生にも受け継がれていくことになった。「民生児童委員さんに協力していただいて、作ることができました」というメッセージも添えることで、次年度の1年生とその保護者にも地域と学校のつながりを実感していただけると期待している。

地震避難訓練では、手作り防災頭巾をかぶって、児童は真剣に訓練に参加している。



### (4)地域諸団体の活躍を紹介しよう (2月~)

児童は地域のために頑張っている諸団体の方々の活動を地域にもっと知ってもらいたいという思いを持ち、冊子にまとめて本校全児童や地域に配布しようと考えた。

このような状況を地域の新聞社「熊本日日新聞社健軍販売センター」の所長さんに相談をしたところ、冊子づくりに協力していただくことになった。そこで、冊子にまとめるための講座で指導をしていただいた。作成にあたっての記事の構成や文章の書き方を指導していただいた。講座では、「5W1H」を必ず書くことや一番伝えたいことをグループで話し合い、原稿をいくつか書いて検討し合うことの大切さのご指導があった。児童は、次の時間から早速グループ毎に原稿づくりに取り組んだ。

全てのグループの原稿を読み合い、冊子の表紙に掲載するタイトルにふさわしい言葉を考える時間をとった。冊子はA4サイズ、全16ページである。卒業式前に完成予定。卒業式で来賓の方々に冊子をお渡しすることを5年児童はとても楽しみにしている。冊子は、本校全家庭300冊と地域の諸団体に100冊ずつ、まちづくりセンターに50冊、学校保管50冊に配布する計画である。



## 3 考察

今回の助成を受けて取り組んだ活動により、児童は地域の方々の学校に対してだけでなく、地域で暮らす赤ちゃんから高齢者の方々のために献身的に活動しておられる姿にとっても感動し、自分たちも地域の方々に守られて育っていることを実感できた。そして、これまでは何事にも受け身であった自分たちも、これからは地域に貢献できることを見つけて実践していきたいという気持ちをしっかり持つことができた。地域を愛することの素晴らしさ、地域とつながり、自分たちもつながることを地域から確実に学ぶことができた。このシチズンシップは、児童が今後この地を離れることになったとしても、児童の心に残り、地域に貢献できる人、災害発生時における共助の考えも強くなっているに違いないと思う。次年度も地域をつなぎ、子ども同士をつなぐ学校づくりに継続して取り組んでいきたい。

